



# 自動車産業における グローバルな組合の力の強化

自動車産業におけるインダストリアル・グローバルユニオンの活動は、企業別ネットワークを通して組合の力を強化することと、特定の国々で強い影響力を行使し、多国籍企業に世界中で責任を負わせることに焦点を当てている。

下表は、市場のトップを走る自動車会社の内部で発展した国際労働組合機構を例示している。インダストリアル・グローバルユニオンは、この産業で企業別ネットワークのネットワークとして機能している。国際連帯と組合の力を行使して、会社公認の世界従業員代表委員会を達成。この委員会は、2012年にコペンハーゲンの結成大会で採択されたアクション・プランに記載されるように、労働組合が企業戦略に影響を及ぼす最高レベルのメカニズムとなっている。これらの機関のすべてで、インダストリアルは経営側に承認された重要な役割を果たしている。インダストリアルは、経営側による企業戦略報告のための会合も含めて、世界従業員代表委員会に全面的に加わっている。

主要自動車会社で国際的に組織化しているインダストリアル加盟組織：

企業	ネットワーク	GFA	従業員数
BMW	EWC の拡大(南アフリカと中国の代議員を含む)	締結済	100,000
ポッシュ	会社公認の3年ごとのグローバル会合	締結済	281,000
ダイムラー	会社公認のグローバル・ネットワーク	締結済	275,000
フィアット/クライスラー	会社非公認のグローバル・ネットワーク	-	215,000
フォード	会社公認のグローバル・ネットワーク	締結済	181,000
GM/オペル	会社公認のグローバル・ネットワーク	-	212,000
ホンダ	アジア労働組合ネットワーク	-	190,300
現代/起亜	会社非公認のグローバル・ネットワーク	-	86,100/40,000 超
日産	グローバル労働組合ネットワーク	-	160,500
PSA プジョーシトロエン	会社公認のグローバル・ネットワーク	締結済	194,600
ルノー	会社公認のグローバル・ネットワーク	締結済	121,800
トヨタ	アジア労働組合ネットワーク	-	333,400
フォルクスワーゲン	会社公認のグローバル・ネットワーク	締結済	572,800
ボルボ AB	会社公認のグローバル・フォーラム	-	110,000

ボブ・キング：UAW 会長兼インダストリアル自動車部門共同部長：

「インダストリアル・グローバルユニオンには、国境なき経済的・社会的公正というビジョンがある。自動車関連加盟組織は、新しい革新的な方法で協力しながら、このビジョンの実現に助力している。ミシシッピ州カントンの日産労働者に対する報復をやめさせるために迅速な行動を起こしているブラジルの労働者から、韓国の双竜自動車で暴力的な弾圧を非難するために団結している自動車労組まで、UAW は、この協力が刺激的かつ効果的であることを確認している」

エーリッヒ・クレム：ダイムラー世界従業員委員会委員長：

「企業が国際活動を拡大・実施するにつれて、労働者代表は、労働者がグローバルな製造命令や国境を越えた意思決定の人質にならないようにしたければ、多国籍機構を確立しなければならない。ダイムラーの国際機関の最終的な目標は、労働者代表のために国境を越えて連帯の精神で、繰り返し相互信頼を生み出すことだ。これらの会合により、全員が平等な情報を得て、上層部と対等に議論することができる」

「私たちは国際労働組合の支援を受けて、これに成功を収めており、新しい現場の労働者代表も加わっている。工場と労働者は互いに顔を持つ必要がある」

フォルクスワーゲン世界従業員代表委員会は、この機関がいかに効果を上げ得るかを示している。地方レベルの人事管理者全員を会合に招待しており、この会合で労働者代表は、国際経営陣全員と CEO、組合の前で現地の苦情を述べる事ができる。地方レベルの人事管理者は、自分の工場で労働者の苦情について公に議論しがらないため、工場レベル組合は、この年次会合の準備段階で合意に達する機会が大きく高まった。

フランスの自動車会社も、インダストリアル加盟組織によって国際レベルで十分に組織化されている。ルノーおよび PSA プジョーシトロエンとの GFA はモデル協定であり、人並みの賃金、労働組合権、安全衛生、サプライチェーンへの適用、実施を監視する世界従業員代表委員会の設置について、強力な文言を盛り込んでいる。

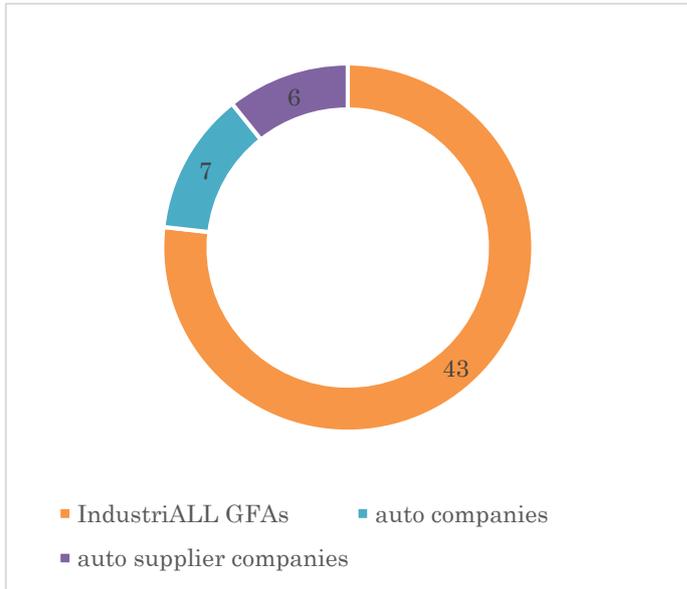
ヘルムート・レンゼ、インダストリアル自動車・ゴム産業担当部長、世界従業員代表委員会にて：

「企業は法律によってではなく組合の力によって、組合の旅費や会合参加費を支給しなければならない。この資金供給が組合の独立性に影響を及ぼすことはない。企業の本国にもよるが、これらの会合は通常、経営側ではなく各従業員代表委員会が主導している。従業員代表委員会は、経営側を会合に招待し、CEO が出席して組合に報告するよう求めている」

「組合は経営側に対し、『労働者はグローバルな組織機構を必要としており、経営者は国際会議に参加するための航空料金を自分で払っていないのだから、組合も払うべきではない』と言っている。『あなた方は企業経営者としての仕事をし、私たちは組合としてグローバル・レベルで仕事をしている。双方が自分の仕事をしており、それにかかる費用は会社の負担であるべきだ』」

この産業には基準となる労使関係制度や協定が数多くあり、他の自動車会社に対し、先例に従うよう圧力をかけている。フォードとのグローバル枠組み協定は、インダストリアルが米国企業と締結した唯一の GFA だ。そして、その影響は侵害の大半が発生しているサプライチェーンにも及んでいる。

平均的な車の価値の 70~80% がサプライチェーンで生み出されているため、自動車部門では他の産業と比べてサプライチェーンの重要性が高い。自動車部門も、労働権侵害の大部分がサプライチェーンで発生するという一般的傾向の例外ではない。グローバル枠組み協定でサプライチェーンへの適用を確保することは、この部門の優先課題である。右の円グラフに示すとおり、インダストリアルはサプライチェーンの企業と多くの GFA を締結しており、その大多数がドイツ企業で、例えばボッシュ、マン・ウント・フンメル、ZF が挙げられる。



BMW、ルノー、PSA、フォルクスワーゲン (VW) とのグローバルな労使関係協定は、自動車サプライヤーでの紛争解決に役立っている。インダストリアルは、トルコの自動車サプライチェーンで、メーカーの権利侵害に対する国際介入を定期的に調整している。このインダストリアルの対応は、エンジン用ゴムシールやボールベアリング、ホイールなど、あらゆる製品を購入する主要自動車会社との GFA のネットワークを通じた影響力によって、大幅に強化されている。

### 組合の力の輸出

ドイツの組合 IG メタルは、インダストリアル・グローバルユニオン最大の加盟組織である。組合員数が増え続けて高い組織率を確保した結果、IG メタルは、本来はドイツの組合を弱体化させるために設置された従業員代表委員会メカニズムにおいて、優位を占めるに至った。IG メタルは、この部門のすべての主要ドイツ企業の監視委員会で影響力を行使している。



「世界各地で、人々は今なお悲惨な労働条件のもとで働き、組合結成を理由に迫害・抑圧されている」とインダストリアル・グローバルユニオンのベルトホルト・フーバー会長は述べた。

「私たちの主な任務は、グローバル化に人間味を持たせるために最低限の社会基準を実施することだ。グローバル枠組み協約をめぐる企業と交渉しており、その会社とサプライチェーンの全事業所で最低条件を実施できるよう努力している」

同じく大規模かつ有力な IG BCE は、タイヤ産業やガラス産業、皮革産業などのサプライヤー部門で重要な圧力を加え、ブラジルの CNM-CUT は国際自動車産業で強固な基盤に立って実に活発に活動している。

同様に日本の自動車総連(JAW)も、高い組合組織率と日系多国籍企業の経営陣に対する影響力を利用し、他国の自動車労働者を支援して働きかけている。

具体的な事例として、ミシシッピ州カントンの日産工場では UAW の組織化活動を、ハリスコのホンダ工場では労働組合 STUHM を、カナダのトヨタでユニフォーの組織化を支援している。

JAW はアジアで組合ネットワークを構築するためにも、いくつかの活動を主導している。JAW は 2013 年 8 月、アジア自動車労働者ネットワークを立ち上げるためにイニシアティブを取った。この新しいネットワークの共通理解は以下のとおりである。

「アジアの自動車労組にとって、連帯により結集してアイデアや意見を交換することは非常に重要である。これがアジアの自動車労組間の関係を深めるうえで貢献し、最終的には、インダストリアルが構想する多国籍企業組合ネットワークにつながることを願っている」



### 実施中の効果的な国際連帯

すべての大陸のインダストリアル自動車関連加盟組織が、すべての場所で適正な労働条件を達成することによってのみ持続可能な産業を構築できることを認識し、闘っている。

組合員たちは、2~3 例を挙げるとインド、韓国、メキシコ、ロシア、トルコで、悪意ある自動車会社や、企業に加担する政府と闘っている。

インドの自動車労働者も同様に、基本的な労働組合権を求めて絶えず闘っており、グローバル組合ネットワークからますます国際連帯を受けるようになるだろう。

注目を浴びる例として、マネサールの日本企業マルチ・スズキのオートバイ工場では現在進行中の闘争が挙げられる。2014 年 1 月 15~31 日、2,000 人を超えるデモ参加者が隣接するハリヤナ州からニューデリーまで行進し、逮捕された労働者 147 人の釈放と停職中の労働者 2,300 人の復職を要求した。

10 月 18 日に蔚山の現代自動車工場のミョンチョン・ゲート近くで、高さ 50 メートルの鉄塔に登ったチェ・ビョンソンとチョン・ウィボン。

2012 年 12 月、フィンランドの多国籍自動車部品メーカー PKC の現地経営陣は、メキシコのシウダードアクーニャ工場では保護協約を維持しようとする容認できない戦術の一環として、ロス・ミネロスの組織化活動に関与した 100 人の労働者を解雇した。

インダストリアルは、フォルクスワーゲン労組 SITIA が、メキシコで特に新しい自動車工場を組織化できる連合団体になれるよう支援すべく取り組んでいる。そうすれば、同労組の対象範囲は自動車サプライヤーにまで広がるだろう。

この産業部門の共同議長を務めるガブリエラ・ピグナネリは、再び国際活動を行うようになり、ますます活動的になっているアルゼンチンの自動車労組 SMATA の出身である。

## 「闘うときは勝つ」

南アフリカの加盟組織 NUMSA は、自動車部門の組合員の利益を勝ち取るために定期的に結集しており、部門別交渉を確立している。例えば 2013 年 10 月、NUMSA の自動車部品労働者は 4 週間のストに入り、年間賃上げ率 10%、8%、8%の新しい 3 力年労働協約を獲得した。

NUMSA は定期的に他国の自動車労働者との連帯行動を求められることがある。日産の UAW 組織化キャンペーンを支援する行動は広範囲にわたっている。NUMSA は 2013 年中ごろに UAW 代表団を受け入れ、日本大使館での騒々しいピケに至る 1 週間の派手な活動を実施、ミシシッピ州の日産工場で組合つぶしを阻止するために政府介入を要求した。

ITUWA は、フォード、フォルクスワーゲン、ベントラー・オートモーティブで組合員を動員することによって、ロシアで充実した労働協約を確保した。ITUWA は 2007 年に Санктペテルブルクのフォードでのスト成功によって創設され、自動車会社およびサプライヤー 17 社で労働者を組織化している。

## 米 VW 労働者の団結権否認

全米自動車労組(UAW)は、この部門で昔から主導的役割を果たし続けている。UAW は非米国系多国籍企業の工場で、さまざまな段階にある多様な組織化活動を実施しており、それぞれの活動が重要な国際組合支援を受けている。2 月 12~14 日にテネシー州チャタヌーガの VW で行われた組合代表投票で、アメリカには労働基本権が存在しないことが全世界に示された。

この重要な投票が外部からの政治的干渉で頓挫したことに疑問の余地はない。

UAW は、チャタヌーガのフォルクスワーゲン組合代表投票で、選出議員が裏で逸脱行動を取ったことをめぐり、アメリカで全国労働関係委員会(NLRB)に異議を申し立てた。UAW は 626 票対 712 票で代表選挙に敗れたが、フォルクスワーゲンが中立を保ち、UAW に工場に立ち入る権利を与えるという、アメリカのそのような労働事例としては例外的な事情があったにもかかわらず、テネシー州の政治家が不可解にもプロセスに干渉した。これはチャタヌーガにおける今後の VW 拡大を脅かすかもしれない。

テネシー州の共和党選出議員数人、ビル・ハスラム知事、ボブ・コーカー上院議員、有力なポー・ワトソン州上院議員の全員が、チャタヌーガに入り込んだ右翼ロビー活動グループに熱心に参加し、UAW を非難するとともに、UAW とフォルクスワーゲンがドイツ IG メタルの支援によって作成した 22 ページの中立協約をつぶそうとした。

「43 票差は大きかった」とデニス・ウィリアムズ UAW 書記長・財政部長は、投票後の記者会見で述べた。「企業と組合が公正な選挙プロセスを確保するために協力しているときに、アメリカ合衆国でこのようなことが起こるとするのは、非常に気がかりなことだ」

## アメリカで日産労働者を組織化

ミシシッピ州カントンの日産労働者が組合結成の取り組みを開始し、UAW に援助を求めたところ、現地経営陣は、集中的なグループ会合や一対一の会談の実施によって厳しく対応し、反組合的なビデオを見せて UAW に対する強い反対を伝えた。このような活動は恐怖と威嚇の雰囲気を生み出しており、これは労働組合化に関して自由選択をする労働者の権利を明らかに侵害している。

インダストリアルは 2014 年 3 月、アメリカにおける組合組織化努力へのルノー・日産の対応に関して、CEO のカルロス・ゴーンに深刻な懸念を表明した。



UAW・フォード技術研修センターのクリス・クランプとロッキー・ディアルコボ

## インダストリアル GFA の対象となる労働者は現在 1,000 万人以上

インダストリアルにとって、労働組合ネットワークは、グローバルな組合機構を構築し、グローバル協定の有無にかかわらず企業内部で労働組合を結びつけるための真の手段だ。労働組合ネットワークは、グローバル資本に立ち向かううえで拠り所となる機構である。インダストリアルは現在、いくつかの産業部門で 43 の GFA を締結している。

グローバル枠組み協定は、労働組合と多国籍企業がグローバル・レベルで取り決め、企業の事業所とサプライチェーン全体で、労働者の権利や適正な労働条件の基準を定める。

GFA のユニークな特徴は、労働者と継続的な関係を築き、社内の労働者自身が労働組合を通じて、権利の尊重と条件の改善を監視・確保できることである。

ユルキ・ライナ書記長は書簡で次のように述べた。

「ルノーがグローバル枠組み協定(GFA)に署名し、ルノー・日産アライアンスがグローバルな労働基準(OECD 多国籍企業行動指針と国連グローバル・コンパクトに記載される基準を含む)の尊重を公約したことは称賛しますが、アメリカの組立工場における日産の行為が、これらの国際的に認知された労働基準に反していることを認めることが重要です。ルノー・日産は、ただ不十分なアメリカの労働法に従うことによって、労働者の人権を尊重していると主張することはできません」

インダストリアルは日産における UAW の組織化活動を支援して、日本、フランス、ブラジル、南アフリカをはじめ世界中の自動車関連加盟組織と協力している。

### 共通の行動計画を設定

ヘルムート・レンゼはインダストリアル自動車・ゴム産業担当部長として、インダストリアル自動車作業部会の年次会合を取りまとめている。この作業部会には、少なくとも 18 カ国とすべての自動車会社から自動車労組が集まり、部門の共通戦略や具体的な行動を討議・設定する。その目的は、組合と企業、国家との関係を安定させることによって、すべての場所で組織化を支援するとともに、インダストリアルアクション・プランに沿って、この部門の既存組合と新規組合の強化を後押しすることである。

作業部会の開催地は戦略的に選ばれる。2010 年に米国デトロイトで初会合が開かれ、UAW の組織化戦略について議論した。2011 年、2012 年の会合はインド、ロシアで開催され、企業の本国の組合代表とともに組織化活動を開始しようと闘う地方組合間の関係構築に努めた。2013 年には日本で会合を開き、日本の組合と極めて重要な関係を発展させた。そして、2014 年の会合はタイで開催の予定で、この部門でアジアの組合運動を強化するとともに、インダストリアルがアジア地域を重視して現地の努力を支援していることをアジアの組合に示す。

自動車部門のもう 1 つの重要な活動分野は、特定の国々、すなわちメキシコ、インド、ロシア、中国に焦点を絞ることだ。2014 年からインドに特に重点を置いており、インドの自動車労組間で団結を築くとともに、インドの組合と、フォードやダイムラーなどさまざまな自動車会社の本社の組合との関係・連帯を深めようと努めている。来年は新たにロシアに焦点を当て、2013 年からの重点国メキシコも引き続き注視していく。これらの国別活動は、各社で大きな影響力を有する主要組合幹部の小グループとともに運営される。それぞれのワークショップは同様の構造で活動し、2 つの優先課題は、現地の状況に対する認識を深めることと、そのうえで地方組合と本社の組合との関係を築くことである。



ブラジルの工場労働者



車体工場の金属仕上セクションで働く GM 労働者のケネス・トレーシー・ジュニア。ミシガン州レークオリオンの UAW 第 5960 支部組合員である。

### 自動車産業のネットワーク構築 - 歴史的背景 -

#### 他の産業で国境を越えた 組織化を先導

自動車産業は、最初から産業部門の中で中心的な役割を果たし、世界レベルの労働者代表やグローバル枠組み協定を先導してきた。自動車部門の組合は、強まる多国籍企業のと対峙するために、労働者ネットワークの構築に向けてグローバルな機関を率先して設立した。

インダストリアル・グローバルユニオンの前身組織の 1 つである国際金属労連は、1966 年にデトロイトで自動車産業世界会議を開催した。UAW 主催のこの会議で、多国籍企業初の労働組合ネットワークが設立される。UAW は、ゼネラル・モーターズ、フォード、クライスラーで組合ネットワーク構築プロジェクトを主導した。これらは企業組合ネットワークの先駆けだった。自動車労働者は企業のグローバル化に対応して、真っ先に組織機構を調整したのである。

ウォルター・ルーサー UAW 会長が、このグローバル・ユニオンの自動車部門の部会長を務めた。現在、このポストにはボブ・キング UAW 会長が就いている。

## インダストリアル・グローバルユニオン・アクション・プランからの抜粋：

インダストリアルは、その使命を果たすために以下の目標に向かって努力する。

- MNC における組合ネットワークとグローバル枠組み協約(GFA)の利用によって、国境を越えた勧誘・組織化キャンペーンを展開する。
- 真の組合の力を構築し、連帯と共同行動(世界レベルの企業キャンペーンなど)を促すネットワークで労働者を団結させることによって、労働者に有利なように MNC との勢力均衡を変える。
- 正式に設置された世界従業員代表委員会やネットワークについて使用者の承認を強く求める。
- 世界・地域レベルで定期的な社会的対話のメカニズムを確立するために MNC との合意を求め、世界レベルの交渉につながる建設的な労使関係を構築できるようにする。
- MNC と GFA 以外の協約も締結できるようにするために、必要な組織的手続きを確立する。

ユルキ・ライナ・インダストリアル・グローバルユニオン書記長は次のように述べた。

「私たちは、ネットワークを通して組合の力を強化するうえで、自動車部門で達成された前進を誇りに思っている。この部門では、強力なネットワークと積極的な組織化が相まって、サプライチェーン全体で労働者に力を与え、GFA を強力な手段にしている。GFA は依然、グローバル化経済で労働者の権利を確保し、多国籍企業の条件を改善する最善の方法の 1 つだ。引き続き GFA 交渉を支援するとともに、遵守状況を監視し、条件を改善していく。グローバル資本は非常に大きな勢力であり、ともに行動する人々の力によって、その力を抑えなければならない」



メルセデス・ベンツの独シンデルフィンゲン工場